

刀利村 傳 吉
 同 村 彌 六
 小院瀬見村藤兵衛せがれ
 權 兵 衛
 廣谷村 八郎右衛門
 小山村仁右衛門せがれ
 與 三 次 郎
 樋瀬戸村五郎右衛門次男
 四 郎 兵 衛

一五〇 十村娘寺坊と縁組之事

能美郡無組御扶持人十村今江村

源 助

右源助儀、大聖寺御領一向宗本善寺に、去年九月娘指遣候節、過分之仕形に御座候由、各御聞及に付、舊臘私共の様子承合候様被仰聞、依是彼郡蔭聞役之者共呼寄承合候所、兩与相知不申候に付、彌承合追而申聞候様申渡候所、未蔭聞役之者共より不申聞候内、及月迫申候。春に越候而は事延々に相成申に付、先風聞之趣を以追込可被仰付旨私共の

被仰聞、人支配之方に付御郡奉行より申渡、追込に御申付被成候。源助儀、去春本善寺に娘縁組仕度旨私共迄申聞候得共、元來十村等役人之儀は、一向寺・町人と養子・縁組取組不申様に、前々より申渡置申候。其上御領違之儀に付、猶更難承届旨申渡置候所、左様候は、右縁組取持人願勝寺儀は、高方に而九藏と申名目に而、娘願勝寺養女に相願申候最初より、九藏に爲取持申儀に御座候得ば、其分に茂奉存候得共、本善寺に縁組之儀主意に付、是以難承届旨再往申聞候所、段々無據趣申立達而相願申候。依是不得止事、か様之類前々より口達を以承置候儀も折々は有之候に付、其例を以右九藏の養女之願口達を以承置申候。右之趣に付、表立承届候儀には無之候故、娘願勝寺に爲取、追而願勝寺より本善寺に遣候共、一年茂立候而萬端穩便に相心得可申旨、再三申渡候。然所去年九月本善寺に嫁娶仕、出立之時分願勝寺に爲立寄申迄に而、始終源助手前より指遣候段、蔭聞役之者共茂人々其通申聞、其上従者も大勢に而、帶刀之者茂指添、諸事華麗之躰各御聞及之通御座候。右源助仕形不届に奉存候。其上行跡等茂不宜躰承及申候。か様之者

役儀被仰付置候而は、惣様御縮方に不可然候間、役儀被指除、御扶持高被召上候様に与詮議仕候。以上。

午二月十日

九 人

前 田
 小 堀 殿
 稻 垣

一五一 御扶持人十村の御扶持被召放候節取捌之事

御扶持人之内子細有之御扶持御取放、或は殺害等被仰付候刻、御印物取立可申候。

一、御扶持御印。是は御家中古所附御印御切拔之内に加上可申候。則御知行割手合に相渡り候。

一、其身一人に當り申御印之物有之候は、勿論取上、御切拔之内に可申事。

但、御宛所一人に而茂、其郡々之儀は左之ヶ條に准可申候。

一、御扶持人共手前に、其郡小物成帳、或は跡々敷貸未進

等取立物濟御證文、或は改作方之儀に付被仰出、御宛所何郡何十村肝煎中など、有之御印之物は、當人斷絶而も相殘る者共手前に預置可申に付、夫々御文言見合相渡置可申候。

一、親御扶持せがれに被仰付候刻、先祖に之御印物請取申度由願候は、御年寄衆御封之箱より相渡り申事。

元祿八年二月

一五二 卯辰山墓印松伐取候者之事

寛延三年八月十四日御所村長次郎に相渡候覺書

八月十二日爲行歩卯辰山の登候所、卯辰山墓印松共伐倒し、枝葉荷作り、大勢在所に引申候。春日山續之所に而兩人休居申所の拙者罷越、様子尋候へば、畠に蔭に成候故願候而伐取、卯辰村・大衆免村・田井村に引申と申候。蔭切は身木共に切取申儀に候哉、見候へば畑に遙に遠き山之上に有之松木共、身木共に伐取候。是は此筈に候哉。但役人指